

## 夏季合宿

8/1～2 で 22 名の参加を持っていつもの清里小平山荘にて泊まり込み夏季合宿が行われました。8/1 は各々数グループに分かれ奥多摩、霧ヶ峰、入笠山、明野村等種々の場所で楽しみ夕方集合のいつものパターンです。今年は梅雨明けしたのかしないのか疑うほどぐずぐずした変な天気、よく晴れた奥多摩組、雨だった霧ヶ峰組等場所によって明暗がはっきり分かれてしまったようです。2 次会は食あたりの私を除き大いに盛り上がったようで、基樹に引っ張り込まれたのかミャンマー初遠征？の若手小沢さんの報告やその日写した生態写真等の披露があったようです。

翌、2 日はどこも雨で早々と帰った組が多かったようですが、天気予報で由一晴れ間があるという埼玉県を目指した組は本当に天気予報とおおり！の裏づけができたのでしょうか？

参加のみなさん、企画のみなさんありがとうございます。天候には恵まれませんでしたがいよい空気をたくさん吸ってリフレッシュしてきました。次年度も楽しく開催を予定、多数参加をお願いいたします。

## \* 新入会員（宜しく願いいたします）

河井宏彰 〒166-0001 杉並区阿佐ヶ谷北 3-22・5B T.F:03-3336-9932 HT:080-5011-4925

hkawai@jcom.home.ne.jp

得津良寿 〒120-0025 足立区千住東 2-20-12-1107 T:03-3882-8596

Kt2008@tomiyasu.co.jp

- \* 7 月例会より新名簿の配付をはじめましたが、以下の方に誤りがありましたのでお詫びし訂正いたします。なお、他にも誤りにお気づきの方がありましたら仁平までご連絡ください。

宮崎重穂 メアドの先頭 s が抜け落ちております。

小野合三 読み、オノリョウゾウが正、また、メアドは ryozo\_ono@ever.ocn.ne.jp に変更

- \* 2010.2 月の例会は 2/16（火）と決定しました。

- \* 松田邦雄さんから時間切れの 7 月例会でお話できなかったのも、ぜひ紹介方宜しく願いしますと依頼がありました。

友人の石森愛彦（イラストレーター）さんが‘うちの近所の生き物たち’ハッピーオウル社、¥1575 を発行しました。今売り出し中の脳科学者、茂木健一郎氏も発見のよろこびと、生き物への愛に満ちたすばらしい本、子供から大人まで多くの人に読んで欲しい！と激賞しているそうです。

## 購入連絡先

〒173-0003 板橋区加賀 1-5-13 キャニオンマンション第 2 加賀町 302 T.F:03-5375-9099

興味をお持ちの方はぜひ手にとっていただければ幸いです。宜しく願いいたします。



ドイツで来年2月「ヘッセ昆虫展」を開く栃木県職員

# 顔

新部 公亮さん 54

09.8.2 読売

作家ヘルマン・ヘッセを昆虫少年としての視点からとらえた展示会を、栃木県の日光自然博物館で31日まで開いている。「少年の日の思い出」に登場するガの標本などを集めた。ヘッセが生まれたドイツ南部の都市カルフのヘッセ記念館で開催も決まった。「ヘッセの国の人たちがどんな感想を抱くか、楽しみです」

本業は、シカやクマの食害対策などに取り組む県民の森管理事務所鳥獣課長。「サナギからチョウへの劇的变化に魅せられて虫を追い、チョウの本も出す。昆虫仲間がドイツ

ノーベル文学賞に展示会を紹介し、「日本でヘッセがそれほど愛されているとは」記念館が目をとめた。北杜夫さんの「どくどくマシボウ昆虫記」に登場する虫の展示も好評を集める。仲間に呼びかけて185種のほとんどの標本をそろえ、会場で北さんを感じさせた。

虫の学名が、ギリシャ神話の神の名からの引用が多いことに着目した企画を温める。睡眠は3〜4時間。「文学を通じ、昆虫少年、少女を一人でも増やすのが目的です」。虫のことになる少年のように疲れを知らない。

(地方部 宮沢輝夫、写真も)

09.7.31 読売(夕)

## 港の話題

W: 漫画家・手塚治虫(1928〜89)が14歳の時に採集したチョウの標本を、弟の浩さん(78)(大阪府城東区)が31日、兵庫県宝塚市立手塚治虫記念館に寄贈した。

W: 寄贈したのは、宝塚市内の自宅近くで捕獲したオオウラギンヒョウモンのおスー一匹で、オレンジ色の羽が美しいが、現在は九州などにしか生息していない絶滅危惧種。標本箱に手塚直筆ラベルも添えられている。

W: 浩さんは「たった一つの形見なので手元に置いていたが、兄の没後20年を機に寄贈を決めた」と話していた。

市民向け講座を多彩に展開する博物館も少なくない。

「ブオー、ブオー」。ウシガエルの太い鳴き声と鳥のさえずりが響く田んぼ道を、大きな虫取り網を肩にかついだ中学生たちが歩く。あ、おるおる、ヤンマー」と誰かが叫ぶ。小高い丘の上では、初めてオオムラサキのオスを捕まえた子がうれしそうだ。わなを仕掛けるため、手がハチミツでべたべたになった子もいれば、草の上に座り込んで採集ポイントを相談する一団もいる。

7月4、5日、兵庫県立人と自然の博物館(同県三田市)が、六甲山の近くにある神戸市北区の里山で開いたセミナー「ユース昆虫研究室」。中学生男女18人が通年計13回の日程で、野外での昆虫採集・観察、標本製作、調査結果のまとめ方などを学び、オリジナル昆虫図鑑を作成して展示、発表する。

ガが好きという



# 化石や昆虫野外で講座

中学2年、川崎安寿さん(13)は「周りには昆虫好きがいなけれど、ここに来れば昆虫について突っ込んだ話ができるし、もっと力を高めることができる」と意欲的だ。

いるかないかの圧倒的少数派で、学校教育ではカバーできない。博物館のセミナーだからこそ、仲間と興味を深めることができる」と語る。

の要望を受けてオープン。恐竜の化石や昆虫の標本など100万点以上を収蔵する。大都市からの交通の便が悪いこともあり、入館者が年間十数万人と、この規模の博物館としては低迷。このため、2002年度から、「生涯学習の支援」などをテーマに、改革に踏み切ることになった。

セミナーは、今年度だけで「丹波の恐竜化石」芦屋でまなぶ森・川・海の自然」六甲山のホタル」など延べ400回以上を予定。同館の利用者数は、直接足を運ぶ入館者数こそ昨年度12万人と相変わらずだが、セミナー参加者などを含めると同55万人に及ぶ。

講師を務める同館主任研究員の八木剛さん(40)は、「昆虫好きは、今では学校に1人

同館は1992年、同県内の新興住宅地に、環境や自然に関する博物館をという県民

同館は兵庫県立大学の自然環境科学研究所の一部も兼ねており、研究員が37人と比較的多い。この研究員らが講師となり、一般市民向けセ

セミナー数は、今年度だけで「丹波の恐竜化石」芦屋でまなぶ森・川・海の自然」六甲山のホタル」など延べ400回以上を予定。同館の利用者数は、直接足を運ぶ入館者数こそ昨年度12万人と相変わらずだが、セミナー参加者などを含めると同55万人に及ぶ。



▲人と自然の博物館 捕まえたオオムラサキを見る八木さん(7月4日、神戸市北区)

- ◆人と自然の博物館(☎079・559・2001)のほか、講座やセミナーなどが充実している主な自然系博物館は、次の通り。
- 千葉県立中央博物館(千葉市、☎043・265・3111)
  - ミュージアムパーク茨城県自然博物館(茨城県坂東市、☎0297・38・2000)
  - 群馬県立自然史博物館(群馬県富岡市、☎0274・60・1200)
  - 神奈川県立生命の星・地球博物館(神奈川県小田原市、☎0465・21・1515)
  - 大阪市立自然史博物館(大阪市、☎06・6697・6221)
  - 兵庫県立考古博物館(兵庫県播磨町、☎079・437・5589)

ユース昆虫研究室も、今年で9年目。卒業した高校生、大学生はサークルを作り、セミナーにも顔を出して子どもたちの相談に乗る。子どもたちは時間を忘れ、知らないことを自分で調べたり、みんなで話し合ったりする。

博物館の外で行う活動が、新たな展開につながっている。(京極理恵、写真も)

09.8.10 読者

湧き水やその周辺に生息する昆虫には、どんな種類があるのだろうか。

「オニヤンマは湧き水で産卵します。幼虫のヤゴは、エサとなるミジンコやボウフラ、オタマジャクシなどが生息する下流へ移動します」と話すのは、群馬県立ぐんま昆虫の森(桐生市)園長で昆虫学者の矢島稔さん(79)。オニヤンマは体長10センチ前後になる日本最大のトンボで、ヤ

ゴも羽化間近には5センチに達する。

矢島さんは「湧き水やその周辺の水は、人間の目には同じようにきれいに見えます。しかし、水質や成分は場所によって大きく異なります」と指摘する。

# トンボ、ホタル手がかり

## 昆虫編



①子供たちと昆虫観察をする矢島稔さん(群馬県桐生市の県立ぐんま昆虫の森で) ②光り輝くゲンジボタル。目撃した地点から上流をたどれば湧き水があるかもしれない



例えば、ゲンジボタルはきれいな川に生息する代表的な昆虫だ。しかし、湧き水そのものでは見られない。幼虫のエサとなる巻き貝の一種のカワニナがない

いからだ。カワニナのエサは植物プランクトンや藻類で、湧き水の少し下流に多い。

矢島さんは、「ホタルは里山の自然環境のシンボル。湧き水探しを通して、生態系全般の保護を考えてください」と話している。

る。

## 「生物多様性」ってなに?

09.8.2 読者

地球規模で生物種を保全することなどを目的とした生物多様性条約の締約国会議について8割以上の方が「聞いたこともない」と回答したことが1日、内閣府の世論調査でわかった。来年10月には国内では初となる第10回締約国会議(COP10)が名古屋市で開催される予定だが、認知度の低さが浮き彫りになった形だ。調査は全国の20歳以上の男女3000人を対象に実施され、1919人が回答。

締約国会議について知っているかをたずねたところ、84

%が「聞いたこともない」と答えた。「知っている」または「聞いたことがある」と回答した計13%の人に、名古屋で開催されることを知っているか聞いたところ、60%は知らなかった。生物多様性は、生物種だけでなく、その生育環境や遺伝子資源も含めた多様性を意味するが、その言葉の意味を「知っている」と答えた人も13%にとどまった。

同条約は1992年の地球サミットで採択。来年の会議には191の条約締約国・地域から約7000人が参加する予定。

条約締約国会議「知らない」8割超